

## 第1回米子工業高等専門学校評議員会 議事要旨

日 時 平成16年7月13日(火)14時00分～16時10分

場 所 米子工業高等専門学校小会議室

出席者 委員：入澤睦美 金田 昭 中永廣樹 副井 裕  
藤田教正 森脇 孝 矢末 誠  
本校：校 長 杉浦哲郎 副 校 長 林 貞男  
教務主事 小田耕平 学生主事 藤田忠義 寮務主事 足立新治  
事務部長 中野 明  
庶務課長 田中 巖 会計課長 仲井 章 学生課長 田屋幸太郎

### 1. 会長選出

米子工業高等専門学校評議員会規則第5条により、鳥取大学工学部長の副井 裕委員が会長に選出された。

### 2. 本校の現状説明

校長から、本校の中期計画の概要及び本校の組織、予算等についての総括的な説明があり、引き続き各主事から各担当事項の説明を行い、最後に副校長から、本校の産官学連携の取組み及び評価の実施状況等について説明が行われた。

### 3. 各委員からの主な発言

高専は大学と違った即戦力となる実践的な人材を育成してほしい。このためには、特にインターンシップ等で現場の経験を得させることが重要であり、更に充実してもらいたい。また、鳥取県では日下に新しい産業創出支援館を設置したので、学生の卒業研究等で大いに利用してもらいたい。さらに、共同研究等の支援施策も用意しているので、これらも利用して共通の研究課題を作るなどして一緒に協力してやっていきたい。

高専の卒業生は、地元で十分に活躍してもらっていると思っている。また、地元企業としてインターンシップ等には可能な限り協力させてもらっている。現在、物質工学科の小川先生と共同研究を行っており、既に特許出願も終わっているが、その手続に際して米子高専は特許庁が指定している学術団体になっていないために時間を要したことがあるので、米子高専も是非指定を取っていただきたい。(松江高専は指定を取っている。)

以前米子市が募集した「橋」のコンペに、高専の留学生在が積極的に応募し、かなり斬新なアイデアを出しており、高専は自由な発想を尊重するところだなと思った。また、4年程前の地震の後、高専の建築学科が液状化現象の調査を行い、大きな地域貢献をしていただいたと思っている。地域が要求している地域貢献を進めていくことは実際にはなかなか難しい面もあるが、地域に対して呼びかけを行うとともに分かりやすい窓口を開いて置くことが重要であろう。米子市では現在、将来計画を策定しているところであるが、公共施設の耐震性の診断等で協力していただきたいと思っている。

本校は、設備も充実しているし、回りの環境も良いし、ロボコンを始めとして興味を引く話題も多いので、中学生や保護者の関心も高くなっていると思う。しかし、一方で土・日が休みとなり

授業時間が限られている。今後は短い授業時間でいかにして高度な知識・技術を習得させられるかを十分に検討する必要があると考えている。

本年度から独立行政法人に移行しているが、独法化に伴う経費節減と教育の質の向上とが両立するかということが一番大きな問題であると考えている。今後益々国際的な競争が激化する中で、高専の教育には質的にも技術的にも高いものが要求されると考えられるが、予算が削減される中で高専が今までどおりすばらしい人材を輩出できるのか。また、産学官連携やインターンシップも進めなければならず、今後は学校経営を大幅に合理化していくとともに自己収入の増加も検討することが必要であろう。

高専は高校と比べて非常に専門性が高く、それが学生の自信とか社会に入って行く時の力となっていると思っている。今日の学生たちは学ぶ力が大幅に低下している。学ぶ力がないという事は、人間として自分を高めていく力が低下しているということであろう。また、人間関係をうまく結んでそれをしっかりとつないでいく力とか、我慢していく力も低下しており、教育の一番基本になる人間力ともいうことが忘れられているので、その問題に取り組んで行かなくてはならないと思っている。高専は専門性の高さでこの問題に対する一つの対応をしているので、そういう良いところを学びたいと思っている。

また、今後は開かれた学校を実現することが重要であり、教員又は学校は学生からの評価や外部からの評価を真摯に聞かなくてはならないし、説明責任も果たさなければならない。そのためには教職員の意識改革が非常に大切になるであろう。

法人化となって、高専も大学も抱えている問題点は同じであるが、特に予算の問題が大きいと思われる。大学は経常的な予算は本当に基本的なものしか配分せず、研究費は自分で外部資金を稼いで来なさいと学長に言われている。科研費、共同研究費、奨学寄附金とか、大きな予算のとれる経済産業省のもの等である。また、これらの資金を取った場合、大学ではオーバーヘッドシステムを導入していて、例えば奨学寄附金の場合では5%を大学に納入するなど、色々工夫をしているので参考にしていきたい。

評価については、される方もする方もあまり慣れていないので難しいと思う。特に教育評価については非常に難しく、授業を多く持てば良いというものでもない。学生の授業評価を参考にするとしても、もっと他に良い指標がないのかというのが現実であり、高専もどのような教育評価を行うかが大きな問題だと思う。また、組織としての評価についても、鳥取大学工学部は一昨年に大学評価機構の試験的評価を受けたが、非常に厳しく、色々細かいことを指摘された。高専も組織としての評価に対して十分に準備をしておくことが必要であろう。

さらに、JABEEについては、これまでに工学部8学科中3学科が取得しており、今後順次全学科が取得することになっている。高専もJABEE対応については、教育の質を保証するためにも、是非近隣の高専より先に取得すると良い。また、JABEE取得は学校の大きなセールスポイントになると思う。

外部資金の導入については、もっと積極的な対応をしてほしいと思う。例えば県の補助金にしても、1回落ちたから止めてしまうのではなく、何が足りなかったかを十分検討して更にチャレンジしていきたい。

様々な補助金の審査会に出ているが、今はほとんど産学官が連携したものを対象としているので、学校単独のものでは採用されない。審査会は、コンソーシアムタイプになっているかどうかを一番注目している。また、良いテーマであっても、1年目では採用されないことも多い。一年で諦めずに3年位で取るような気持ちで出してほしい。

## 会議配布資料

学校要覧(平成 15 年度)

入学生向けPRパンフ

専攻科パンフ

産官学連携のススメ

K O S E N ?

米子工業高等専門学校中期計画

米子工業高等専門学校の予算